

私の日々の活動記録から

2013年7月からパソコンの「フェイスブック」で活動記録などをあれこれと発信しています。その中からの抜粋です。

中学校給食の「試食会」(2015年3月12日)

鈴鹿市で初めての「中学校給食」が、3月12日「試食会」として行われました。明日の卒業式を控えた3年生の生徒たちに、「最初で最後の給食」がプレゼントされたのです。5月1日からは全中学校で本格実施となります。地元の鈴峰中で、給食配送車の到着から配膳、みんなで食べるところまでを



見届けました。私が初めての市議選で「中学校給食の実現」を公約にして、28年たった今年にやっと実現したのです。

生徒たちが楽しそうに食事する風景をながめながら、4代の市長、教育長と何度となく論戦をしてきたこと、「実現する会」の皆さんと運動

を進めたこと、などを思い出していました。

2015年3月12日は、2002年12月20日(大合併議案を否決、鈴鹿市を守った本会議の日)とともに、私の心に残る記念日となりました。

盛況だった東京「赤旗まつり」(2014年11月3日)

2日、3日と東京の赤旗まつりに行ってきました。すごい人出でした。これまで参加した中で、最高でした。2日は8万人!志位委員長と八代亜紀さんという珍しいツーショット、森永卓郎さんの言いたい放題も良かったです。大学時代の仲間が「出会いの広場」に大集合、40年ぶりの友との



たくさんの再会。フーテンの寅さんとも、久しぶりでした。こんな元気なイベントは、毎年やってほしいですね。

真弓神社のお祭り（2014年10月12日）

今日は私の村の祭です。昼すぎに神社でご祈祷があって、祭のイベントは別の場所の公園で行われています。

わが村の神社は、「真弓神社」という名で、昔の伊船村の庄屋だった真弓長左エ門という人が祀られているお宮さんです。長左エ門は400年ほど前に、伊船村の谷に堤防を築いて「竜が池」という用水池を作った人で、その用水によって新たに田が開かれ、伊船新田という集落ができたのです。長左エ門は、わが伊船新田の生みの親ということで、用水路のそばの神社に祀られているのです

コメ作ってメシ食べねえ！（2014年9月18日）

今年のわが田んぼの取り入れの成果は、8俵でした。3年連続の10俵はならず。さっそく新米のご飯をいただきました。今年はコメの価格が暴落、コシヒカリでも1万円を切るようなことでは、来年から耕作放棄する人がたくさん出るのではと心配です。TPP以前の問題です。

わが新米の原価は、苗代金12000円、田植えから籾摺りまでの機械作業や肥料の支払い75000円、合計87000円。1俵11000円の経費がかかり、私はタダ働きでした。うちはすべて自家消費だから、笑っていられるが、販売する農家は文字どおり「コメ作ってメシ食べねえ」です。

秋の田の かりほの庵の苫をあらみ わが衣手は露にぬれつつ

リニア問題の講演会ひらく（2014年9月18日）

9日に行なった「リニア問題講演会」、台風の雨が強まる中でしたが72人の参加で、いい勉強会になりました。会場は亀山でしたが、亀山市民30人と、鈴鹿市民21人、県下各地から21人と、リニア問題への関心が広まっていることが示されました。

橋山先生の話は、具体的で分かりやすく、いかにリニアが「事業成功の判断基準」（目的の妥当性、経済性、技術的信頼性、環境適応性）のどれもまともに検討されていない、始める前から失敗が分かっている代物であるか、を解明していただきました。

私は閉会あいさつで次のことを述べました。

私の親父は国鉄職員でした。どこかに連れていってくれたことなどなかったその親父が唯一、開通した東海道新幹線と一緒に乗りに連れていってくれ



たことを、今でもよく憶えています。名古屋から大阪までワクワクしながら乗りました。新幹線は「夢の超特急」と言われ、国民的に大歓迎されました。

こんどのリニアはどうでしょうか？多くの問題点を国民に何も知らせることなく、ムリヤリ着工しようとしている。橋山先生の話で分かった、そのトンでもない問題点を、みんなに知ってもらうことが必要です。

落合恵子さん講演会、大成功（2014年7月6日）

7月6日、市民の実行委員会で行った、落合恵子さんの講演会、市民ホールを満員にして成功裏に終わりました。鈴鹿市で、市民運動の集会在市民ホールいっぱいで行なわれたのはめったにないことです。

私は実行委員会で、落合さんの駅からの送迎という役をいただき、落合さんとじかに話が出る「役得」をもらいました。最後の著書のサインセールは、150人以上の人が並び、帰りの列車のギリギリまでサインを書いていただき、

ヒヤヒヤしましたが、何とか「快速みえ」に間に合い、東京へお帰りいただきました。

この取り組みを通じて、今日本中の市民の皆さんが、政治を変えよう、日本の未来を何とか明るくしよう、と頑張っている、鈴鹿での今日のイベントも大いに役立ったのではないかと、確信を得ることが出来ました。



ちょっとうれしい話（2013年12月28日）



14年10月、大阪でお祝い会

私が8年ほど前から相談にのっている姉弟から、弟が公務員採用試験に合格したと、うれしいメールが届きました。姉も公務員としてすでに働いています。

出会ったときは、父親が倒れて植物状態（その後死亡）、母親がパートで必死に姉弟との生活を支えていました。高校生と中学生だった姉弟に、がんばって勉強して進学し就職して「貧困の再生産」にならないよう応援してきました。二人とも明るくて前向きな性格で、苦難を乗り越えてやっと長いトンネルから抜け出しました。姉はいま「生活保護」を担当しているとのこと。次は結婚式のお知らせを待ってます、と返信しました。

ずいそう



母校の校歌と平和憲法

鈴鹿年金者組合の機関紙「きらら」2月号の「私と憲法」というコーナーに、高校時代の思い出を投稿しました。ここに少し加筆して紹介します。

わが母校・県立神戸高校の校歌は、日本国憲法施行から3年後の1950年3月1日に制定されました。大木惇夫作詞のその歌詞は、新憲法のもとに平和と民主主義の日本をめざす理想を格調高く歌い上げたものです。68年に入学した私は、この詞とメロディが好きになり、今でも全曲を歌うことが出来るほど憶えています。

1番から4番までの歌い出しのフレーズを、以下に紹介します。

1．鈴鹿の川にみそぎして 文化の虹を懸くるもの 2．銀杏の若葉かくはしく 民主の旗をかざすもの 3．鼓が浦の潮鳴りに 自由の鐘を秘むるもの 4．うまし稲みつる緑野に 平和の星を仰ぐもの

短い歌詞の中に「文化」「民主」「自由」「平和」という憲法のキーワードが、居心地よく座っています。1年生最初の音楽の授業で、前田博先生がこの校歌と「君が代」の歌詞を「正しく」教えてくれたことも、はっきりと憶えています。

先生方も多くが戦争体験者でした。南方でマラリアにかかった後遺症で髪の毛が天然パーマだった地理のO先生、戦車に乗っていたのでやたらに大声だった数学のY先生、鉄砲の名手だったと豪語していた生徒指導のK先生などなど、その個性的な風貌や語り口とともに懐かしく思い出します。

戦後民主教育の中でのびのび育った私たちの世代こそ、憲法を守る中心にならねばと改めて思う今日このごろです。

字数の制約で書けなかったのですが、この歌詞の終わりのフレーズも、私は気に入っているのです。作者・大木氏の心が伝わる詞です。

1．ああ智恵さとき人たらむ 2．ああ徳高き人たらむ 3．ああ世の幸を わかたばや 4．ああ美(うるわ)しく伸びんかな

大木氏は、戦争に協力して多くの軍歌を作ったことへの深い反省から、智恵と徳を身につけて、平和な世界をつくり、その幸せを分かち合おうと、若者たちに心から呼びかけているのです。